

牛久：学校周辺に見る自然

第17号 ひたち野うしく小

2010年6月9日発行

＜木の実が大きくなってきました＞

春の花はすでに終わり、初夏の花たちが次々と咲きだしていますが、花は人に見せるために咲き誇っているわけではありませんね。そう、次の世代となる種子をつくるために咲いているのです。そこで今回は、校庭に育つ果樹で、春の花たちのその後を追ってみました。

①ブルーベリー(ツツジ科)



＜4/28＞



＜5/10＞



＜6/7＞

春、白い花をたくさん下げていましたが、今は中央に雌しべの花柱のあとをプチッと残し、果実が丸くふくらんできています。雌しべの子房だけでなく、ガクなどのつけ根(花床筒)もいっしょに大きくなっており、

気がつくとも果実は上向きについています。

②リンゴ(バラ科)



＜4/28＞



＜5/10＞



＜6/7＞

まだ小さい木ですが、果実がいくつかふくらみ、赤みもさしています。まとまってつく花(果実)の中央のもの一つを普通は残します。これも花床筒がいっしょに大きくなります(というか子房の部分はほとんど捨ててしまい、主に花床筒を食べていることになります)。

③ミカン(ミカン科)



＜6/7＞



＜6/7＞



＜6/7＞

日付が皆同じで、まちがえてると思っていませんか？実は同じ時期に花と小さな果実を見られるのです。ガクや花弁のつけ根より上に果実がついているのが分かりますか？そう、リンゴなどと違ってミカンは子房のふくらんだ部分を食べているのです。

このように花から果実への変化を追うと、私たちが花のどの部分を食べているのか知ることができるのです。マメやトマトなどではどうでしょう？調べてみませんか？【理科支援員・宮内】